

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0475401311
法人名	株式会社 インブルー
事業所名	グループホーム あったかいご こおりやま
所在地 (電話番号)	〒982-0003 仙台市太白区郡山字石塚21-7 (電話) 022-308-8155

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 21 年 1 月 20 日

【情報提供票より】平成20年12月15日

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 14.0 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	新築/○改築
建物構造	鉄筋 造り 2階建ての1階~2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	水道, 光熱費(月額)	24000円, (冬季)27000円
敷 金	○有(100,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	700 円	おやつ 円
または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要 (20年12月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	8 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	65 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 中嶋病院, 新寺クリニック, アイボリー歯科クリニック
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

仙台副都心長町駅から車で10分、国道4号線から少し入った住宅街の一角に、グループホームあったかいごこおりやまがある。玄関横に大きなウッドデッキがあり、ボランティアの方が幾つものプランターに、四季折々に花を提供していただいている事に感謝をして入居者と一緒に楽しんでいる。近くには小学校、コミュニティセンター、包括支援センター、併設してデイサービス、老人福祉センターがあり、もう一方では田や畑が広がる自然に恵まれた閑静なところでもある。ホームのすぐ側には、昔からの神社があり、元旦には初詣に出掛けたり、また気晴らしの散歩コースにもなっている。職員は、入居者一人ひとりの状態を把握し、その人に合ったケアをめざして日々努力しており、「あったかいご」の名のもと、心温まる支援を心掛けている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題の取り組みは①市の担当者と往來の機会は少ないが包括支援センターとは連携を図っている。②献立の見直しを栄養士や保健師等専門的な観点から指導や助言をいただけるように取り組んでいく。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義は全職員が理解しており、自己評価は各ユニット間で話し合い、管理者がまとめ作成している。評価に関わってみて日々の暮らしの中での振り返りや気づきができた(ヒヤリングから)。要改善点については、前向きに取り組みたい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回、奇数月の第4週目の金曜日に決めて開催している。メンバーには、民生委員2名、包括支援センター、入居者、管理者等が参加している。ホームの状況報告の際に、市の監査員から推進会議へ家族会も加わるよう指導を受けた事や、メンバーから要望が出されるなど双方向的な会議となっていた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年1回家族会を開催し意見や要望を聞く機会を設けている。また、ホームや行政以外の第三者委員を選定中である。家族が気軽に相談できる窓口は必要であることから、できるだけ早いうちに委員を委嘱し家族に伝えたいとしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、町の行事の夏祭りや子供会、小学校の運動会、どんと祭等に参加している。また、ボランティア数名により、おりがみ教室を開いて一緒に過ごしたり、四季折々に花を提供していただいでいて楽しんでいる。地域の社会資源としてホームのできることを町内の回覧板を通して伝達し、交流を深めていきたいとしている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、開設と同時に全職員で話し合いをして作成しており、地域に根ざした支援を心掛けてつくりあげている。毎年見直しの話し合いは行っているが、事業所独自の理念として継続しており、今後も見直しをしていきたいとしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、一階のユニットは食堂フロアの目に付きやすい位置に、二階のユニットは玄関に掲示されており、月一回の定例会議で理念を共有し、実践に向け日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、町の行事の夏祭りや、小学校の運動会等に参加している。また、ボランティアの方が来訪しておりがみ教室や四季折々にお花を提供し支援していただいている。ホームの敬老会に地域の人々や運営推進委員を招待している。また、地域の社会資源としてホームのできる事を町内の回覧板を通して伝え交流を深めていきたいとしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は全職員が理解しており、自己評価は、各ユニット間で話し合いし、管理者がまとめ作成している。評価に関わってみて日々の暮らしの中での振り返りや気づきがあった(ヒアリングから)。要改善点については、前向きに取り組んでいきたいとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、奇数月の第4週目の金曜日と決めて開催している。民生委員2名、包括支援センター、入居者、管理者等参加している。市の監査員から推進会議へ家族会も加わるよう指導を受けた事の報告やメンバーからインフルエンザ予防について話を聞きたいとの要望が出されるなど双方向的な会議となっていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	近隣に包括支援センターがあり、日常的に指導や助言をいただいてサービスの向上に取り組んでいる。郡山地域の高齢者の集まりには、入居者と一緒に参加している。また、栄養の指導を市の栄養士や保健師などから助言を受けていただきたい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	入居者の状況や暮らしぶりは毎月の「事業所だより」でお知らせしている。また、家族の面会時に、近況を伝えたり話し合いを持つなど一人ひとりにあわせて報告している。金銭の状況も合わせて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年一回家族会を開催して、意見や要望を聞く機会を設けている。また、ホームや行政以外の第三者委員は選定中であるとしており、家族が気軽に相談できる窓口は必要であることから、できるだけ早いうちに委員を委嘱し家族にも伝えたいとしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は職員間ではないが、離職者に関しては難しい現状にあるとしている。職員交代が出た場合は、入居者の状態把握に努力し、できるだけダメージを最小限に抑える配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回の定例会議の際に、身体拘束や虐待防止等について学び情報を共有している。研修は職員の段階に応じて行うようにしているが、業務上難しい状況にあり外部研修等は参加出来ていない。	○	内部研修等では学ぶ機会はあるが、職員の間で研修を受けて見たいとしており、職員を育成する為にも勉強会や相互訪問の場を提供し、働きながらトレーニングを重ねサービスの質の向上に繋げていただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO県グループホーム協議会に加盟している。管理者はグループホーム協議会の役員を受けており、年2～3回交流する機会を持ちネットワーク作りに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	納得した上で入居していただく為に、定期的にホームに来て日中を過ごしてもらい、徐々に馴染んでから家族と相談をしながら本人の状況に合わせて入居に繋がるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者に対して人生の大先輩として尊敬の念を持って接しており、本人から学ぶ事も多く、日常的には野菜の切り方や料理の味付けや正月には七草粥を教えていただくなど常に感謝をして支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の暮らしの中で入居者一人ひとりの思いや意向を気づきノートに記録し、カンファレンスに活用したり行事等に取り入れたりしている。また、意思表示の少ない方にはじっくり時間をかけて意向を汲み取るなど本人本位のケアに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意思や思いを東京センター方式で把握し、家族の面会時には意見や要望を聞いたり日々の生活の中の気づきノートを活かしている。また、医師の意見も取り入れてケアカンファレンスで話し合い、個別のプランを作成している。プランは本人や家族に説明し同意を得て渡している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に見直しを行っている。急変時や入、退院時等必要に応じてカンファレンスを開いてプランを見直し、本人や家族に説明をして同意を得て渡している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や外出は基本的に家族の方が行っているが、その時の状況や要望に応じて柔軟に対応し支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医は、入居前から継続している方もいて必要な医療として支援している。また往診を希望される方には、事前に同意書を交わして医療機関への支援に努め、状態急変時には、協力医療機関にお願いする等、その時の状況に応じて対応し情報の伝達を密にして連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応に係る指針は成文化されており、本人や家族に説明し同意書も戴いている。看取りの対応は、職員に看護師を配置し、往診の医療機関への24時間対応可能により、状況変化に応じてその都度職員間で話し合い、本人や家族の希望を優先し関係機関と連携を図りながら行いたいとしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法は職員全員が周知しており、個人の記録物は所定の場所へ保管している。多くの時間を入居者と共に過ごすことから、馴れ合い的な言葉掛けに注意を払い常に尊敬の念を持って接している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課となっている起床、食事、入浴、就寝等の支援は、その人の生活リズムやペースに合わせて柔軟に対応している。入居者のしたい事や要望など気づきノートを活かして、できるだけ叶えられるように支援している。できない時は、時間や日を改めるなどして対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食べたい物を聞いて、それを献立に取り入れて作成している。食事の準備や後片付け等は入居者一人ひとりの力に合わせて職員と一緒にこなしている。食事は職員のさりげないサポートの中、和やかに楽しみながら一緒に摂っていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	これまでの習慣を活かして、その人に合った入浴が出来るように支援しているが、入浴を好まれる方が少なく苦慮している。拒む方には、無理強いせずじっくりと時間をかけてタイミングをみて誘導し入浴に繋げている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を干したりたたんだり、裁縫や掃除、食事の準備等その人の状況に合わせて力を発揮して頂いている。また、洋画が大好きな方がいて2～3時間楽しまれていたり、車で買物へ出掛けるなどそれぞれの気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い日には、近隣の神社や公園へ散歩に出掛けたり、ドライブしながら食材の買出しへ行っている。また、近くのお館屋へ歩いて出かけた時、月に一度は外食や外出を楽しむなど喜んでいただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けないとしている。ホームは2ユニットあり、1階と2階からなっている。1階は、安全対策のためセンサーを設けており、2階は出入口に鈴を付けて人の出入りが分かるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自衛消防隊をつくり年1回夜間を想定した避難訓練を実施している。今年からは年2回の訓練を予定している。ホームには飲料水用の貯水槽があり、非常災害時等にいつでも飲み水は提供できるとしており、その事を運営推進会議や町内会に伝え地域住民の協力を得られるように働きかけていきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量は記録しており、月1回の体重測定で健康の調整を計っている。しかし、疾患の方もいるようなのでカロリー計算や栄養のバランスなど栄養士の方から献立の助言を受けてない。	○	入居者の健康を維持するためには、毎日の食事の観察は大切であり、一人ひとりの状態を把握する大事な手段である。栄養士や保健師等から専門的な観点から献立作成についての指導や助言を受けるよう取り組んでいただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	寮を改築して造られた入居者の住まいである。リビングの一角には小上がりの和室があり、何時でもコタツでくつろげるようになっている。また、中央部分に1階～2階に繋がる広い階段があり非常用として確保している。フロアには季節感のある掲示物やボランティアと一緒に作った作品が飾られ、適度な光や音の調整に配慮し、空調管理が行われるなど、温かな共用スペースであった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋の入り口にはのれんが下がっており、そこに入ると使い慣れたTVやラジオ、ダンス、衣装箱、椅子、仏壇などが持ち込まれ、また家族の思い出の写真を貼るなど、その人に合った居心地の良い居室となっていた。		